



NEWS LETTER

“家族の一員になれた!”
～韓国の子たち、アンニョンハセヨ交流から～



ホストと対面

韓国へのホームステイは初めてのことで、とても心配していました。



対面式でホストファミリーに会う前は、会うのが楽しみすぎて、ちょっとうふんしていました。

でも、いざホストファミリーに会うと、韓国語を話そうとしてもカチンコチンになって全然話せなかったです。

いっしょに遊べた!

その後、家に着くとすぐにオンマ（母）が「水遊びしなさい」と言ってくれて、庭に用意してくれたビニールプールでホストのウネと弟のソンスと3人で遊びました。とても楽しかったです。

ホストのウネから、私の住んでいる大阪のことなどいろいろなことを聞かれました。はじめ、ウネはほんやく機を使いそうになったのですが、私は使ってほしくなくて、「アンデ! アンデ! (だめ、だめ)」と言ってジェスチャーや英語もいれて、おたがいの口と体で伝えあいました。



ウネと私は、韓国のTWICEのファンだったので、私が日本語でウネが韓国語で歌いあったりして、とても気が合いました。弟のソンスには、1から10までの数や、おみやげに持って行った動物しょうぎやけん玉を教えてあげたりしました。

3日目にエバーランド（遊園地の名前）に行ったときジェットコースターで、私がこわがっていたのを見てソンスが「ケンチャナ（大丈夫）」と言って手をにぎってくれました。とてもうれしくて、「家族の一員」にしてもらえた気がしました。



家族一人ひとりに自分から



オンニー（お姉さん）ははじめ、スマホばかりいじっていたけれど、「私は家族の一員にしてもらうためにホームステイにきました」と韓国語で言ったら、よくわかってくれてそれから話しかけてくれるようになりました。

ハルモニ（おばあちゃん）とアッパ（お父さん）は日本語が話せました。韓国ではお年よりを大切にするから朝起きると、オンマ（母）から、「ハルモニ（おばあちゃん）にあいさつしてきて」と言われて、ハルモニのところへいきました。はじめあいさつだけだったのが、だんだん、15分くらい話をして、「今日もがんばって!」と言ってくれるようになりました。



アッパ（父）とは、仕事が忙しかったのであまり話せず、話しても日本語ばかりだったので、これではいけない、家族のことで話さないと家族じゃない!と思い、アッパに「明日は、アッパとは韓国語で話したいです」と言いました。アッパはわかってくれました。



人生で一番楽しかった体験に

韓国では、私が自分のちょうさ書に書いた「やりたいこと」は全部やらせてくれました。毎日がうれしくて楽しくてあつというまに時間が過ぎて気がついたらさいごの日になりました。

お別れの日、ホテルで、韓国の家族から手紙をもらいました。それを読んで思わず泣いてしまいました。自分の「家族の一員になる」という目標が達成できたので、本当に良かったです。そして、人生で一番楽しかった体験になりました。

